

学生と教員の見方



【アピールポイント】
現在、宅地建物取引士資格試験に向けて勉強中で、来年は2級建築士に挑戦しようと思えます。

ん、石川結翔さん、今関弘和さん、川島夏陽さん、黒越陽向さん、佐藤希海さん、真田陸さん、立石輝さん、中山遥斗さん、宮川朋大さん。

【学生の見方&考え方】

(3年 真田陸)

私が今回模型を作ってみて考えたことは、2つある。

1つ目は、模型を木で作成することの難しさだ。私は今回の作成では主に木を

切ったり削る、部材加工する役回りだったが、寸法が

少しでも違ったりしたら、全体がくずれてしまうた

め、長さや厚さに気を付けながら、作業した。この作業

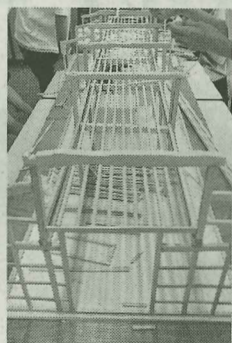
の中で難しかったことは、木目の反対から切るとき、

かなり力が必要で、切るのに時間がかかってしまった

ことだ。実物の木材でも切

りやすい場合、切りにくい場合がある。これは、木材に

④更新と伝統を考える模型



は木目の向きにより順目、そのあるなしがあり、切り出された部位の影響を感じる場合には切りにくくな

っているのかわからないものが多々あった。そつした取り合いのなかで、建物両側

【教員の展開】
(前島彩子教授)

ゼミ活動で取り組んでいったるべく、小さな部材を金物で接合する方法が一般化してきた。しかし近年、

2つ目は、木造建築の構造だ。教科書や製図のト

上部にかかっている湾曲した横架材が柱に斜めにとり

つく部分に、伝統構法の仕

目模様は特徴が

製作で知る木材の特徴

業で学んだ建築材料や構工法との関

でる板目は建員

複雑な構造に触れる 仕口に「長ほぞ」技法

る。一般的に建築模型

の少ない柱目は

って接合する在来軸組構法

口にみられる「長ほぞ」が

る。模型で使った木材にも

を目にするのがほとんど

いた。20分の1の模型では

だった。今回、伝統

建築を模型として具

仕口の加工までは再現でき

現化しようとしてみ

なかつたが伝統の技術がK

AGURA棟を通して具体的

にイメージでき、すこ

身近になった。

どうやって接合され

模型製作 石井祥太